

令和7年度 学校運営協議会評価報告書1

鳥取県立皆生養護学校

学校長 山田 知子

評 価 日	令和7年5月27日（火）	
評 価・提 言		学校の所見・改善策
1 目標設定について ・令和7年度学校経営方針と併せて確認した。方針とも合っていてよい。 2 評価項目と目標達成のための取組について ・視察からも障がいの状況に合わせてすごく努力している様子が感じられる。 3 具体目標について ・学校にいる間はよく見てもらえている。卒後を見据えて学校できること、地域でできることを考えていきたい。 4 目標達成のための具体方策について ・交流の状況は確認した。外に出て行く活動の充実を目指しているのがよい。移動が問題になってくる。地域の交通資源を使っていき、発信していくことでインフラの整備につながる。 ・子どもたちが地域に出て行くことで様々なバリアがわかる。地域としてもその状況を踏まえてできることを考えていけるとよい。 5 その他 ・学校を出てからが心配という声があり、福祉の現場でも聞かれる声。障がい者が出かけるのは費用		・学校でも地域とつながっていく活動を計画している。学校でできることだけでなく、活動をとおして地域にお願いしたいことも整理していきたい。 ・校外学習等で公共交通機関を使用したり、昼食をレストランで食べるなど、地域にある資産を利用していくことで、本校の子どもたちが地域で生活するイメージや必要な支援が明らかになるので検討していきたい。 ・在学中から地域社会で生活するイメージをもって指導

面で大変さがあつたり、地域資源として楽しめる活動がすくなかったりする。 ・ 皆生の子どもたちが地域に出て活動することで、知ってもらえることができる。社会が変わるきっかけになる。 ・ 余暇を楽しむために、どのように地域がかかわっていくのか。学校ではプールがあり子どもたちが楽しんでいるが卒業すると入る機会がない。外部人材が学校の入水にかかわることで、地域にも広がっていくのではないかな。 ・ I C Tの活用でよい取り組みをしているが、卒業してからも地域でサポートできる機関があると本人も保護者も安心して使うことができる。学校がということではなく、地域資源や行政のサービスでサポートできるとよいのだが。 ・ 校内視察でトイレが古いと感じた。アコーディオンカーテンでしきるトイレは地域にはない。外でトイレを使う経験につなげるためにもトイレの改修は検討する必要がある。	したり学習活動を展開したりする必要がある。学校教育目標や戦略事業での展開はもちろんであるが、日々の授業で意識していけるように考えていきたい。 ・ プールについて、まずは学校運営協議会委員に視察をしてもらい、今後の展開のアイデアを一緒に検討していきたい。 ・ I C Tについては地域資源の情報を集めつつ、在学中からつながる取り組みを目指していきたい。 ・ トイレについては施設設備面の要求を県教育委員会に伝えていきたい。 ・ 今回いただいたご意見は学校だけで解決するよりも、行政と地域も一緒になって考え推進していけるとよいと考える。今後も本校の子どもたちが地域に出て行き、その姿を見てもらうことで理解と支援をいただけるようにしていきたい。
---	---